

## 今月のみことば

2015年6月

『さあ、来たれ。論じ合おう』と主は仰せられる。  
『たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる』(イザヤ書1章18節)



ここで「緋」と訳されているヘブル語は「二度染めをした緋色」のことだそうである。また「紅」というヘブル語は「トーラー」ということばで、血の色を表す。

白を赤に染めるのは決して難しいことではない。しかし、一旦真紅に染まったものを真っ白にする、というのは不可能であると言ってよい。

およそ赤ほど周囲の風景の中で目立つ色はない。しかし、ここでは美しい赤のことではなく、罪の色を表している。

この「トーラー」という語はキリストの十字架を予表した詩篇22篇でも使われている。「しかし、私は虫けらです。人間ではありません。人のそしり、民のさげすみです」(6節)。ここで「虫けら」と訳されているのがそれである。一体どういうことか。

実は、「トーラー」とはもともとパレスチナの檜の木に生息する虫のことで、あたかも植物の一部であるかのように装っている(写真)。やがてそこから赤い色をした何千という卵が産みつけられる。幼虫が大きくなると母親は死に、真っ赤な物質を分泌し、自分も幼虫も、そして木も赤に染まる。この赤が中東において幅広く高価な染料として用いられてきたのである。



3日経つと、母親の死骸は赤の色を失って徐々に白い殻のようになり、それが地面に落ちると林の中はまるで新雪が降り積もったようになるという。

神は、実にご自身の御子が十字架上で虫けら同然に扱われるのをお許しになり、私たちの真っ赤な罪がキリストの純白の義によって覆い隠されるようにしてくださったのである。何という驚くべき神の恵みであろうか。